

●発行日：2019年11月16日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行:教材出版 学林舎

GAKURINSHA  
TOPICS2019年 学習の行き先  
科目学習する意味を考える  
—国語編—

これまでに、算数と理科、社会を学習する意味について考えてきました。今回は、国語を学習する意味について考えたいと思います。

「国語を学習する」といえば、みなさんはどのようなことを思い浮かべるでしょうか。

文法と漢字を学ぶこと、そして文学的文章(小説・随筆)や説明的文章(論説文・説明文)、古典(古文・漢文)を読むことだと答える人が多いかもしれません。確かに、学校の授業ではそのような取り組みを行いますね。では、そのような学習をすることにはどのような意味があるのでしょうか。

私たちが考える国語を学習する目的は二つあります。一つめは「相手の言いたいことを理解し、自分の言いたいことを相手に正確に伝えるため」、そして二つめは「他の教科の学習に役立てるため」です。

## 【相手の言いたいことを理解し、自分の言いたいことを相手に正確に伝える】

例えば、文法と漢字を例に挙げてみましょう。私たちが毎日、話したり読んだり書いたりしている言葉には、一定のきまりがあります。これを「文法」とよびます。文法を学習することで、私たちは正しい言葉遣いを身につけて、文章を正確に読み取ったり、読み手に自分の考えや思いが伝わりやすい文章を書いたりできるようになります。

漢字は中国から伝えられてきたものですが、日本では漢字からひらがな、カタカナが生まれました。ひらが

などカタカナは音だけを表す文字ですが、漢字は音だけでなく、その文字のもつ意味も表しています。そのため、漢字を適切に使って文章を書けば、自分の考えや思いをわかりやすく伝えることができます。ひらがななどカタカナだけの文章では、多くの場合、どのようなことを伝えようとしているのか、わかりづらい文章になってしまいます。

また古典は、昔の人々が作り、長い間読み継がれてきたものです。そこに描き出されている人々の生活や考え方は、現代とは大きく異なることもあるでしょう。しかし、人間の喜びや悲しみといった感情などは、いつの時代でも変わりません。こういった長い時間経っても変わらないものを発見することは、古典を学ぶことの意味の一つです。古典を学ぶことで、日本の伝統・文化の大切さやおもしろさを知り、日本人ならではの考え方を知るきっかけになるのではないのでしょうか。

## 【他の教科の学習に役立てる】

新しい学習指導要領では、全教科で「言語活動の充実」が強調されています。そして、国語はすべての学習の基盤とされています。国語以外の教科でも、書かれている内容を正しく読み取ることができないと、問題を解くことはできません。その教科の知識を覚えて理解するだけでなく、どのようなことが問われているのかを読み取り、自分の知識を応用して、答えを正しく表現することが必要なのです。

このように、国語を学習することは、国語の知識を増やしたり学力をつけたりするだけでなく、他の教科の学習にも役立つうえに、相手と円滑に意思疎通を図るためのコミュニケーション能力を育むなど日常生活でも生かすことができます。国語を学習することを苦手と感じている人も、普段の生活で話したり読んだり書いたりしていることが密接につながっていると知れば、もっと身近に感じて、学習しやすくなるでしょう。

(文 / 学林舎編集部)

## 2019年 学習の行き先 小学校教科書改訂一理科編

前回は、2020年から使用される小学校の算数の教科書について紹介しました。今回は、2020年から使用される小学校の理科の教科書について、これまでの教科書との違いを、追加される内容、学年が移行する内容、中学校へ移行する内容、プログラミング教育の4つの観点について紹介します。

### ～追加される内容～

#### ・音の伝わり方と大小

「音の伝わり方と大小」が小学3年生に追加されます。ここでは、音を出したときの物の震え方に着目して、音の大きさを変えたときの現象の違いを比較しながら調べ、音の性質を学習します。この内容は、中学1年生で学習する「光と音」につながります。

#### ・雨水の行方と地面の様子

「雨水の行方と地面の様子」が小学4年生に追加されます。ここでは、雨水の流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさとを関係付けて調べ、雨水の行方と地面の様子を学習します。この内容は、小学5年生で学習する「流れる水の働きと土地の変化」や小学6年生で学習する「土地のつくりと変化」につながります。

#### ・人と環境

「人と環境」が小学6年生に追加されます。ここでは、人と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べ、生物と環境との関わりを学習します。この内容は、中学3年生で学習する「生物と環境」につながります。

### ～学年が移行する内容～

#### ・光電池の働き

「光電池の働き」が小学4年生から小学6年生に移行します。これまでは、小学4年生の「電流の働き」の中で学習していましたが、小学6年生の「電気の利用」の中

で学習するようになります。「電気の利用」は、電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べ、発電や蓄電、電気の変換を学習します。この中で、発電に関する道具として「光電池」を扱います。

#### ・水中の小さな生物

「水中の小さな生物」が小学5年生から小学6年生に移行します。これまでは、小学5年生の「動物の誕生」の中で学習していましたが、小学6年生の「生物と環境」の中で学習するようになります。「生物と環境」では、生物と水、空気及び食べ物との関わりや、人と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べ、生物と環境との関わりを学習します。この中で、「水中の小さな生物」を観察し、それらが魚などの食べ物になっていることを学習します。

### ～中学校へ移行する内容～

#### ・電気による発熱

「電気による発熱」は、これまでは「電気の利用」の中で学習していましたが、中学2年生に移行します。

### ～プログラミング教育～

「プログラミング教育」は、算数だけでなく、理科でも必修化されます。理科では、例えば、小学6年生の「電気の利用」において、身の回りにある温度センサーなどを使って、エネルギーを効率よく利用している道具があることに気付かせます。その上で、実際に目的に合わせてセンサーを使い、モーターの動きや発光ダイオードの点灯を制御するなどといったプログラミングの仕組みを理解し、体験的に学習していきます。

以上のような学習内容の変更だけでなく、今回の学習指導要領の改訂のポイントである「資質・能力を育成する学びの過程の改善」、「主体的・対話的で深い学びの実現」、「教材や教育環境の充実」に向けて、授業もかわっていくと考えられます。

(文 / 学林舎編集部)

## 2019年 教育の行き先 多様性を受け入れ、 共に考え生きる

「多様性」いろいろな様式・様相に分かれること  
—『広辞苑』より

現代の日本社会は多様性に富んでいます。さまざまな国籍、ジェンダー、年齢、信仰を持つ人びとが共に暮らしています。こうした背景には国際化やインターネットの進歩など、たくさんの要因が考えられます。ひとりひとりが暮らしやすい社会をつくるためにはどのようなことができるのでしょうか。

現代社会は情報化社会と言われ、インターネットやテレビ、新聞などの媒体を通して、だれもが簡単に情報を得ることができます。しかし、それらは100%正しいとは限りません。また、1つのものごとでも、見る角度によって見え方はちがいます。ですから、自分自身で考え、その情報がほんとうに正しいかどうかを判断し、取捨選択することが大切です。わたしたちが人と接するときにも同じことが言えるでしょう。

わたしたちの中には、自分とはちがっている人を受け入れられずにいじめや差別をしてしまう人がいます。いじめや差別には固定観念が関係していると考えられます。自分の生まれ育った環境や経験、受けてきた教育から、相手のことをよく知らないまま、「この人は〇〇だからこういう人間にちがいない」と決めつけてしまうのです。しかし、わたしたち人間はみなちがっています。同じ人間はひとりもいません。ですから、固定観念で人をこうだと決めつけてしまうことは決して正しくありません。自分自身で見聞きすることをもとに、考え、判断する必要があります。

また、「ちがいは」「優劣」ではありません。童謡詩人・金子みすゞさんの作品に「わたしと小鳥とすずと」という詩があります。自分と小鳥と鈴を比較して、それぞれのよいところを描いています。そして、最後に「みんなちがって、みんないい」と締めくくっています。金子みすゞさんの言うとおりに、人はみなちがっていて、それぞれにちがった特徴や魅力があります。まずは自分自身

を見つめなおすことから始めましょう。自分の特徴や価値観を把握することで、他者とのちがいをよりはっきりと認識できるでしょう。そのとき、他者が自分とちがうからといって、否定してはいけません。その人のよいところを見つけ、それを認めるのです。そうすると、自分とはちがっている他者の個性も受け入れられるでしょう。このように、他者の文化や価値観を尊重することは、ひとりひとりが暮らしやすい社会につながります。

さまざまな国籍、ジェンダー、年齢、信仰を持つ人びとが手を取り合って暮らす社会を想像するとわくわくしませんか。人はそれぞれちがった価値観や考え方、経験を持っています。そんな人びとがたくさん集まれば、「三人寄れば文殊の知恵」ということわざが表すように、よりよいアイデアが生まれ、技術や産業、社会の発展につながることでしょう。また、多種多様な知識や経験、背景を持った人たちと関わることで、自分ひとりでは経験できないことをたくさん知り、学ぶことができます。

町に出てまわりを見渡すと、いろいろな人がいることに気づきます。自分や他者の魅力を認め、他者の価値観を尊重し、よりよい社会づくりに貢献するために一歩踏み出してみましよう。

(文 / 学林舎編集部)

# クロスロード Crossroad

第99回 文／吉田 良治

## ラグビーワールドカップ 日本代表から見えるダイバーシティ

今年、日本でラグビーワールドカップが開催され、日本代表がグループリーグを全勝で勝ち上がり、初のベスト8進出を成し遂げました。準々決勝では前回大会に勝利をしていた南アフリカと対戦し、3-26で敗れました。しかし、これまで大きな壁となって立ちはだかっていたティア1といわれる世界上位8か国の中に割って入り、今回の大会もグループリーグで対戦時世界ランキング1位のアイルランド、そして前回大会に敗れベスト8進出を阻まれたスコットランドと、ティア1チームを立て続きに撃破してのグループリーグ突破は、日本ラグビーの歴史に新しい扉を開いた瞬間でした。

一方ラグビーの特性上、国籍が違う国の選手でも一定条件をクリアすれば、他国の代表として試合に出場することが可能であるため、今回の日本代表にも主将のリーチ・マイケル選手をはじめ海外出身者（日本国籍取得者を含む）が数多く日本代表として出場しました。日本では少子高齢化が進み、あらゆる分野で人材不足が深刻化しています。スポーツも例外なく人材不足に陥ります。高校スポーツでは野球やラグビーなど一校では単独チームを構成できず、複数校での合同チームで大会に出場することが増えています。しかし、プロ野球やJリーグなどプロスポーツだけでなく、アマチュアスポーツの多くで外国人の参加をいまだに制限しています。企業では労働力不足が深刻化し、海外からの労働力を活用する動きが加速していきませんが、スポーツ界はまだ外国人選手枠で制限を続けています。

一方、アメリカのプロスポーツでは海外からの参加に制限はなく、MLBやNBA、そしてNHLなどは、海外か

らの選手の受け入れに積極的です。オリンピックや世界選手権などの国際大会をみると、MLB、NBA、NHLの国別オールスター戦と思えるほどです。大学スポーツのNCAAでも海外の留学生が数多く参加しており、リオオリンピックでは約1,000名のNCAA出身・現役のアスリートが参加し、6割は海外の留学生でした。NCAAの大会がオリンピックレベルの高い国際大会と同等といえるのです。

以前、ミスターラグビーとして知られる平尾誠二と、コーチングについて意見交換したことがありました。その時の内容が平尾氏の著書“日本型思考法ではもう勝てない”でも取り上げていただきました。日本で様々な課題がある中、多くのケースで改善の邪魔をするのは狭い世界の思考です。以前対談した元阪神タイガースのマット・マートンも、“Think Outside The Box（既成概念を取り除け）”という言葉を使い、日本で必要なことは既成概念にとらわれない姿勢が重要！と話していました。平尾氏とマートン、日本で成功した二人のスポーツ関係者が共通して指摘した日本の問題点とその解決は、柔軟な思考と広い心で違う価値観を尊重し、相互理解を深め課題の解決に力を合わせて取り組むことを意味します。

今回のラグビー日本代表の成功事例は、日本のスポーツが発展するうえで単なる人材確保だけでなく、ダイバーシティ・多様性を養う絶好の機会の場として、海外からの人材の受け入れを積極的に行うことを教えてくれています。そしてダイバーシティはスポーツに限らず、あらゆる分野で必要とされています。

(つづく)

### 吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog <http://ameblo.jp/outside-the-box/>